

劣悪な環境の中で暮らすフィリピンの子どもたち。 資金難で中断した校舎の増築工事をAJOSCの助成が完成に導く。



新しい校舎で授業をするレイエス校長と子どもたち

フィリピン、ケソン市郊外に広大なゴミの山がある。いつか、この山の周囲に、ゴミを拾い、それを売って生計をたてる貧しい人々が集まってきた。レイシア・B・レイエスさんはそこに自力でフリースクールを開校し、20年にわたって、学校に通えない子どもたちに教育の機会を提供してきた。しかし常に資金難にさらされ、先生の確保も難しい上、生徒が増えても校舎増築資金がままならない。AJOSCではその増築資金を助成することにした。

巨大なゴミの山の麓にある、
貧困層の子どもたちのためのフリースクール。

それは日本では考えられない光景だ。フィリピン、マニラ首都圏ケソン市郊外のパヤタス地区に高さ30m、数十ヘクタールに及ぶ広大なゴミの山がある。乾季にはメタンガスが自然発火して炎があがり、雨季はゴミの山が泥沼状態になり、猛烈な腐臭がたちこめる。

そんな劣悪な環境の中でも、拾ったゴミを売って生計を立てている人々(スカベンジャー)が暮らしている。1日ゴミを拾っても、100～200ペソ(270～540円)にしかならないが、家族みんなで拾えばなんとか食べていけるのだ。子どもたちもゴミ拾いに精を出すのだが、ガラスの破片が混ざっているのにゴム草履で歩き回り、時にはゴミの中の残飯を口にするような光景も見られる。もちろん、学校に

通うような余裕などはなかった。

ルソン島生まれのレイシア・B・レイエスさんが、1982年にこの地区に越して来たときはまだこのゴミの山はなく、緑に囲まれた美しい土地だったという。しかし半年後、パヤタスごみ処分場として谷にゴミが捨てられはじめ、すぐに山となってしまった。

ある日、レイエスさんは近隣の人たちから頼まれ、子どもたちに勉強を教えた。最初は5人だったが、1か月後には40人を超えた。それがきっかけとなり、1989年にフリースクール「パララン・パンタオ(思いやりの学校)」を創立することになったのである。行政の支援はなく、レイエス校長と地域の人々が協力し、自力で建てた学校である。授業料はもちろん無料だ。

開校当初は、壁にトタン屋根がのせてあるだけの建物で、地面の上に親たちの手づくりの机と椅子を置いただけの粗末なものだった。しかし、学ぶことを知った子どもたちがどんどん集まり、1995年には200人を超えるようになった。

数百名が犠牲になったゴミの山の崩壊。
「希望の源」である教育の火を消してはならない。

2000年7月、痛ましい事故が起きた。ゴミの山が崩れ、数百人が死亡したのだ。この事故で多くの人がエラブシティ(リサール州モンタルパン)に移住したため、2003年にはエラブ分校を開校したのだが、生徒の増加に伴い、どうしても増築が必要になった。

しかし、「パララン・パンタオ」は住民組織で運営されており、各国の支援団体によって支えられているとはいえ、常に資金難にある。果たしてエラブ分校の増築工事も中断を余儀なくされた。

「パヤタス・オープンメンバー」を主宰する岩崎一三さんは、1994年にフィリピンへ旅行をした際、たまたまこの地区を訪れた。その光景に絶句し胸を痛めた岩崎さんはレイエ

ス校長の志に共感し、日本での支援活動を開始したのだ。支援金を集めて送金するだけではなく、ホームページやニュースペーパーで、「パアララン・パンタオ」の情報を発信し続けている。また現地の日本人留学生の協力を得てボランティア活動も続けている。

「全日本社会貢献団体機構の助成のことを知人から聞いて、ワラにもすがる思いで申請を行いました。今回は本当に助かりました」

岩崎さんの願いは通じ、助成金によってエラブ校の増築工事が再開された。2007年12月に完成した新しい校舎は、明るくてとてもかわいらしいものになった。風通しもよく快適なので、子どもたちも大喜びで勉強に励んでいるという。「パアララン・パンタオ」は幼児と小学校課程の教育を行っているが、ここで学んだあと、公立小学校やハイスクールへ進学する子どもも少なくない。やがてゴミを拾わなくても生きていけるようになる。地元にとっては、貧困から抜け出す希望の源なのだ。

レイエスさんはこの活動によって2007年12月に「アジア



ゴミを拾う子どもたち。後方に巨大なゴミの山が見える

人権賞」を受賞した。レイエス先生と「パヤタス・オープンメンバー」の努力はまだまだ続く。興味のある方はぜひホームページを見ていただきたい。アジアの生の状況を知る上でも有効である。



工事を中断したエラブ校



完成したエラブ校



To: AJOSC,
Greetings!

I hereby acknowledge receipt of ¥1,000,000,- donated for the completion of our school building in Erap City, Montalban Rizal. Your donation helps a lot, for us to accommodate more poor children to be educated.

On behalf of our children, parents and teachers, I would like to thank you.

Thank you very, very much.

Respectfully yours, Leticia B. Rayes
Paaralang Pantao, Philippines

AJOSCの皆様にごあいさつ

リサール州モンタルバンのエラブシティにある私たちの学校の校舎を完成させるために寄付していただいた助成金をつつしんで受け取りました。

より多くの貧しい子どもたちを受け入れ、教育するために、非常に役立ちます。

子どもたち、保護者、教師を代表して御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2008年3月22日

レティシア・B・レイエス
パアララン・パンタオ フィリピン



●担当者より 工事に必要な現金での助成に感謝しています。

自分たちの生活費を削ってしまうと、ボランティア活動を長く続けられなくなります。それでもエラブ校の増築工事中断は最大の心配事だったのですが、今回、AJOSCさんの助成を受けることができ、工事に必要な資金をまかなうことができました。

ありがとうございました。

パヤタス・オープンメンバー 代表 岩崎一三さん